

平成28年度

第3回駒ヶ根市総合教育会議

議 事 録

駒ヶ根市教育委員会

## 平成28年度第3回駒ヶ根市総合教育会議議事日程

平成28年12月13日（火曜日）  
駒ヶ根市役所本庁舎2F大会議室  
午前10時30分 開会

### 1 あいさつ

### 2 協議事項

- (1) 3カ年実施計画（H29～H31）について
- (2) 平成29年度予算について

### 3 その他

次回教育総合会議 開催予定：平成29年4月予定（平成29年度第1回）

## 出席者

### 教育委員会

教 育 委 員 長	北 原 美 香
教育委員長職務代理	下 島 公 平
教 育 委 員	福 澤 惣 一
教 育 委 員	唐 澤 浩
教 育 長	小 木 曾 伸 一

### 市長部局

市 長	杉 本 幸 治
総 務 部 長	萩 原 浩 一
民 生 部 長	倉 田 俊 之

### 事務局職員

教 育 次 長	小 平 操
子 ど も 課 長	北 澤 英 二
社 会 教 育 課 長	小 出 孝 幸
学 校 教 育 係 長	久 保 田 浩 人
子 育 て 家 庭 教 育 係 長	水 野 毅
教 育 総 務 係 長	山 本 和 重
教 育 総 務 係	下 島 清 志

## 会議のてんまつ

### 議事日程記載のとおり

午前10時30分 開会

**○小平教育次長** ただいまから28年度の第3回駒ヶ根市総合教育会議を開催させていただきます。本日の進行を務めさせていただきます教育次長の小平と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは最初に杉本市長よりごあいさつをお願いいたします。

**○杉本市長** おはようございます。(一同「おはようございます」)

今日は第3回目の総合教育会議ということでございます。今回は特に新年度に向かって予算の編成へこれから入っていきますので、そんなことで意見交換できればいいかなと思っています。

今年は特に駒ヶ根市の中でも子育て関係の予算が充実してきたのかなと、そんなふうに乗っております。ハードの面では、経塚保育園の建設。初めて芝生化したことや、それに併せまして子育て支援センターも新たにできたというようなことで、先日もちょっと見てまいりましたが、子どもたちが外に出て賑やかに遊んでおりましたし、子育て支援センターも、ちょうど行ったときは26組が来ていただいていた、お話をお聞きしました。いろいろ食べることもできるし、今まで他のところに行っていた人たちも大分来ていただいているのかなと思っています。

それから、あとは、社会体育のほうも市民体育館がリニューアルしてスタートできたこと。それからふるさとの丘のドームも芝生化できたこと、また、特に、十二天の森も取得ができたということで、ハードはそんなところができました。

それから、保育料についても、この10月から上伊那の平均にまで引き下げさせていただきましたし、また市内の全保育園・幼稚園が自然型保育の認定をしていただいたということで、良かったのかなと思っています。あと、乳幼児の皆さんへの一時預かりを市内に充実させてもらったり、病児保育についても市内の医療機関の先生と共同でできたことなど、いろいろのところでも少し進められたのかなと思います。

あと、ハードで残っております東中の耐震事業と、それから体育館のつり天井につきましては、今回、補正で充実させていただきましたので、あとは、赤穂小学校が唯一ですかね、そこから辺になってきたのかなと思っております。ある程度、地方創生の子育てという面で重点的に取り組めたかなと、そんなふうに乗っているところがございます。

教育現場のほうでは、残念ながらこのところ先生による不祥事がこの上伊那で起きているということで、特に保護者の皆さんにしてみれば、信頼している先生方があのような非違行為をするということは本当に許せないことでもありますし、また子どもたちに与える影響も大きいと思っていますので、ぜひ、そんなことも含めて意見交換する中で、新しい年への準備をしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

**○小平教育次長** 続きまして北原教育委員長さんから、ごあいさつをお願いします。

**○北原教育委員長** おはようございます。(一同「おはようございます」)

本日は第3回目の総合教育会議ということで、市長さんもお忙しい中、会議を持たせていただきありがとうございます。

先ほど市長さんもおっしゃいましたけれども、教育現場の中でいろんなことが起こり、いじ

めという問題に関しては、やはりまだ歯止めがかからずに、福島から避難されているお子さんがいじめをされていたというようなこともありましたし、県内でもいろんなことが起こっている中、おかげさまで、この駒ヶ根市では特に大きな問題もなくこの一年が締めくくれるのではないかなと感じております。

この教育委員会も、10月より新体制になりまして、私も慣れない委員長をお受けさせていただきました。また職務代理も替わり、新しい委員さんも2人お迎えをいたしました。そんな意味で、3カ年実施計画に従いまして、今日の総合教育会議を進めていくと思っておりますけれども、市のほうの事業、また教育委員会の事業は継続しておりますが、4人の委員が新体制に変わったということでありますので、本日はざっくばらんな市長さんとの意見交換の場ということでお願いできたらと思っております。有意義な会議になりますよう、どうぞよろしく願いいたします。

#### ○小平教育次長 ありがとうございます。

それでは、お手元の次第に沿いまして会議を進めさせていただきます。

現在、第4次総合計画に基づいて策定されました教育大綱に沿って事業を進めているところでございます。前回、第2回の総合教育会議では、向こう3年間の事業実施計画であります3カ年実施計画で計画すべき事業などについて、それを議題としまして意見交換をさせていただきました。お手元に配付してあります駒ヶ根市実施計画、3カ年計画ですけれども、第2回の会議の意見交換などを踏まえまして策定したものでございます。本日の主な会議事項となっております平成29年度予算編成に当たっての指針となるというものでございます。

なお、実施計画につきましては、先の定例教育委員会の際に説明をさせていただきましたので、本日は内容の説明は省略をさせていただきます。本日の本題であります次第の協議事項(2)でありますけれども、平成29年度予算編成に向けての意見交換の資料ということでお願いしたいと思っております。

それでは、早速、29年度の予算に向けた意見交換に入ってまいりたいと思っております。なお、お手元に平成29年度教育委員会主要事業の取り組み方針として、意見交換の参考資料ということで用意をさせていただきました。これは、3カ年実施計画に計画されました事業のうちで、29年度に予定しているもの、あるいは、29年度以降で計画的に事業を進めていく主要事業、そういったものを中心にまとめてございます。資料の中で何点か付記させていただいてありますが、1ページの1の学校教育の推進でございますが、下段の(3)の安全な学校施設の整備に向けた取り組みですけれども、市長が冒頭で、ごあいさつにありましたとおり、イのところの東中学校の特別教室棟、それ以降、赤穂南小学校及び赤穂中学校の体育館のつり天井の耐震、それから、ロの赤穂東小学校のエレベーターの設置につきましては、国の補正予算を活用しまして、平成28年度へ前倒して予算措置をしているものでございまして、現在、開会されております12月定例市議会に補正予算として提出をしているものでございます。実質的には、繰り越して29年度事業として実施をする予定でございます。

それから、3ページの下段の5のホストタウン事業でございますが、こちらは2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、地域の活性化あるいは観光振興に資するという視点から、国が地方自治体をホストタウンということで登録して、その参加国との人的あるいは経済的交流、文化的な交流を図っていこうというものでございます。当市としては、積み重ねて

きた交流の歴史を踏まえまして、ネパール、それからベネズエラを相手国として申請をしまして、第1次のほうで登録を受けたものでございます。このエルシステマ事業ですけれども、ホストタウンの相手国でありますベネズエラで開発された音楽教育プログラム、これを活用した事業ということでございまして、そもそもエルシステマというのは、オーケストラを中心とした音楽活動を通じて子どもたちの忍耐力とか協調性とか自己表現力といった社会性を身につけさせるもので、音楽を通じた子どもの生きる力を育む、そういったものでございます。現在、30カ国以上で展開されていて、国際的にも評価をされているというものでございます。駒ヶ根版のエルシステマについては、そこにありますとおり、音楽を通じて生きる力を育む事業ということで計画したものでございまして、学校とか、あるいは、今現在、活動しています子どもたちを中心とした音楽のグループとか団体がありますので、そうした皆さん、あるいは市内の音楽の専門家の皆さんと連携しながら駒ヶ根市に合った取り組みを進めていきたいというものでございます。

それから、最後のページですけれども、6の生涯学習活動の推進のところの(2)の赤穂公民館の整備ですけれども、こちらは、これまで教育委員会でもご議論いただいてきたところでございます。建て替えにより整備をしていきたいというものでございまして、建設場所につきましては、公共施設の集約化を図って効率的な運営をしたり、あるいは事業の実施を図っていくという基本的な考え方を踏まえまして、文化センターの敷地内への建設も含めて、これから検討するということではございますが、31年度、本体工事、建設を目指していこうというものであります。

資料につきましては、前回、内容等は説明してありますので、ポイントのところだけ説明をさせていただきます。

それでは、今日の本題であります29年度予算に向けましての意見交換ということで、まず教育委員さんのほうからご意見等を頂戴したいと思いますので、よろしく願いいたします。

**○北原教育委員長** この順番でよろしいですか。

**○小平教育次長** はい。

**○北原教育委員長** はい。では、下島委員さんからお願いします。

**○下島教育委員長職務代理** それでは、早速、よろしいでしょうか。

今、説明のありました教育委員会主要事業の取り組み方針についての(3)、一番下段の新竜東学校給食センターの整備に向けた検討であります。この実施計画書によりますと平成31年度に440万円の事業計画がされておまして、具体的に、最短距離で進んでも、実際にこの建設ということになりますと4年後以降ということで、4年以上かかるというように考えられますけれども、竜東の給食センターは外観を含めて相当老朽化しており、特に子どもの食に関わる部分でもありますので、でき得れば前倒しをして、この竜東給食センターの整備にご配慮いただければありがたいなあと、こんなように思いますが、いかがでしょうか。

**○杉本市長** 先ほど話しましたように、あと耐震の関係で残っているのが、学校の関係ではこの給食センターですかね。一応、今は、いざという時のためにということで、子どもたちの教室などを優先していますが、財政状況もなかなか今のところ厳しいもんですから、その問題意識は持っているのですが、3カ年計画の中でも、どこかではその取り組みを具体化していきたいとは思っているんですけど、先ず子どもたちのところを優先させてもらって、その次でと思って

いますが、赤穂公民館もありますし、ちょっと大きな事業が重なっているの、あとは財政状況ですかね。皆さん御存じかと思えますけど、私が市長になったとき、平成19年——20年なんですけれども、そのときと比べて、税収ベースだけでもどのくらいですかね、個人住民税の関係でも、4億円くらいですか、税収が減っています。

○萩原総務部長 3税で5億円でしたかね。

○杉本市長 税収が5億円くらい落ちています。それから、地方交付税が去年から今年で約3億円くらい減るとい、今そんな経済情勢なので、何とか税収が上向いてくればと思うんですけども、問題意識は持っていますが、その中でも子どもたちのことを優先させてもらっているの、財政の状況等を見ながら、どこかではやりたいと思っています。ただ、その場合に、今の場所というのではなくて、他の場所でということも考えて、整備する場所について、教育委員会の中でも検討してもらいたいと思っていますが、よろしくをお願いします。

○下島教育委員長職務代理 確かに教育委員会関係だけでも大型事業があるので大変だと思いますけど、ぜひお願いいたします。

○杉本市長 はい。

○北原教育委員長 ありがとうございます。

それでは、3番の子育てに関して唐澤委員さんのほうからお願いします。

○唐澤教育委員 それではお願いします。3番の子育てに喜びを感じる家庭づくりの(1)の放課後の児童の預かりのことですけれども、これは教育委員会で、福祉とも関係するのかもしれないですが、私、個人的には「子ども食堂」というのに興味があるんですけども、交流センターだけじゃなくて、やっぱり地域の人に関わるとか、そんなようなことを進めたらどうかなあと思うんですけども、いかがですか。

○倉田民生部長 子ども食堂につきましては、現在、始めたところがあるところなんですけれども、どうしても民間の方の力を借りないといけないという部分がありますので、こちらからも提案しつつ、やっていけたらなあと思っていますけれども、いずれにせよ、そうしたことへの要望と、それからやる方がうまく合えばできるかなあと思っています。

○杉本市長 その子ども食堂というのはどういうものなんですか。

○唐澤教育委員 放課後などに子どもを集めて、例えば家に大人がいない子どもだとか、そういう子どもたちが集まって、ボランティアの方が食事を提供したり、あと勉強したりするというようなもので、今、全国のいろいろなところでやっているんですけど……

○倉田民生部長 やり方はいろいろあるようで、今、放課後の話ですけれども、全国的には例えば休日に民間の食堂を使ったりというところもあり、居場所も含めてやっているようです。

○杉本市長 子どもたちが食事を作るとか、それとも提供するの。

○倉田民生部長 子どもたちへの提供ですね。

○唐澤教育委員 そうです。どちらかといえば居場所ですね。

○倉田民生部長 そう、居場所ですね。

○杉本市長 子ども食堂。交流センターの中にそういうのをつくるの？

○倉田民生部長 交流センターとか、あるいは民間の食堂の一部を使ったりとか、いろんなやり方はあるんですけども、子どもたちに食事を提供して、子どもたちの居場所をつくるという趣旨もありますね。

○唐澤教育委員 そうです。

○杉本市長 今どのくらいそういう需要はあるんですか。駒ヶ根市で実際にそういうことをしなきゃならない対象者はどのくらいいるのか、実態はどうなんですか。

○唐澤教育委員 私も、ちょっとはっきりわからないんですけども、元々は貧困家庭などの支援というようなことでやっていたようですけども、そればかりだと、やっぱり行くほうもなかなか行かないと思うので、誰でも良いということだったら、結構行く方もいるんじゃないかとは思いますが。

○杉本市長 適切なことをやらなきゃいけないので、全国でやっているからといってやってもね、駒ヶ根市の場合は、どうなんですか。

○倉田民生部長 まだ、福祉のほうへは、具体的には要望などは無いけれど、そういう声があって、また、やりたいという方が出てくれば、そういうことで進めていければと思っています。

○杉本市長 それより、今はいろいろのところで、食べ残しなどがすごく多いじゃないですか。そういうことを見ていると、本当に、そういう食堂やなんかに使ってもらったほうが良いかなあと思うし、そういうこと等を含めて、何か考えられれば良いがなあ。子ども食堂も、どういう需要がどのくらいあるかということが分かれば、また検討もできると思いますが。

○唐澤教育委員 私も、具体的な案がわからないもんですから、そういうイメージで良いかなあと思います。

○杉本市長 確かに、さっき年収の話を見せてもらったけれども、駒ヶ根市だけでも市民税の課税になる収入が490億円くらいあったものが、今は400億円ですから、大体4分の3で4分の1の収入が減っているということは、各家庭において厳しい家庭が増えてきているのかなという、そういうことは感じていますので、やはり目に見えないところで、子どもたちにそういうことが必要であるとすれば考えて行くので、また教育委員会でも、福祉のほうも含めて状況把握をしてください。

○水野子育て家庭教育係長 実際に今関わっているお家でも、その食べるものがなかなか大変だというお家は何軒かあるんですが、今は福祉等と連携して、お米を提供したりということをしているので、子ども食堂というものをやれば、そういう対象になるお子さんもいるんですけども、一般のご家庭の人も合わせてやらないと、それは行きづらいということもあるので、そういうことも踏まえて、考えていきたいと思っています。

○杉本市長 今、そういうので食材を提供したりしたいっていう人は結構いますね。そういう人たちのことも合わせて、うまく仕組みができるようなら良いかもしれない。また、需要等の把握と合わせて検討は進めてください。

○北原教育委員長 今の件ですけども、もちろん貧困という家庭も多々聞かれるお話ですけども、食育の面から考えますと、貧困ではないのに偏った食事になってしまうという家庭は結構あると思います。お母さんも忙しいとか、例えば母子家庭だったり父子家庭だったり核家族だったり、どうも小売りのお弁当になってしまうとか、買って来たものをチンして食べてしまうというようなことも、結構あると思います。子どもたちの中には、お菓子を食べてそれが夕飯になっちゃうという子も聞いたりしますので、そういった意味でも、その子ども食堂っていうのは少し活用できると良いのではないかなという気がいたします。貧困だとか居場所だけではなく、食育という面からも考えられたら良いかなと思います。



- 杉本市長** ちょっとイメージがわいてこないんだけど、それはどこへつくるんですかね。各学校単位に何ヶ所もつくるということですかね。
- 唐澤教育委員** ほとんど、その地域でやっているんですよ。ボランティアの方がやっていると思うんですけども、例えば市が関われば市の施設でということもあるし、集会所が使いやすいとか、いろいろあると思うんです。
- 杉本市長** 朝もやるの。
- 唐澤教育委員** 朝はやっていないですね。
- 杉本市長** 朝だって食べない子、今多いんでしょう。毎日、365日やるということ？
- 唐澤教育委員** 毎日ではないです。たまにやって、地域の大人も来たりして、そういうところで関わり合っていくということなんです。
- 北原教育委員長** そうですよ。食を通じた居場所づくりですので、毎日食べさせるわけではないですよ。
- 唐澤教育委員** そうですね。人のつながりというか、そういうことだと思うんですけども。
- 杉本市長** 地域子育てということでいけば、校外指導部さんだとか、地域の取り組みがいろいろありますね。そういうところに位置づけたほうがいいのかなあ。
- 唐澤教育委員** やっぱりボランティア的な人がやってもらわないと、多分続かないと思うので、そういうところとのマッチングとか、立ち上げをお願いしていくということですかね。
- 小平教育次長** そうですね。状況を踏まえて検討をさせていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。
- 北原教育委員長** それでは、5番目のホストタウンに関して、引き続き何かありますか。
- 唐澤教育委員** では、その下の5番目のホストタウン事業ですが、オーケストラがメインというか、余りイメージがはっきりわからないんですが。私のイメージでは、子どものスポーツには、やっぱりみんな力が入るけど、文化系の方には余り力が入っていないということから考えると、すごく良い事業だと思いますが、いま一つ、このイメージがわからないし、じっくりこないんですが、どのように進めていくかというのはこれから考えられると思うんですけども……
- 杉本市長** これねえ、私がこのシステムに出会ったのは、ちょうどベネズエラの大使が来てくれて、東京でベネズエラの音楽会があるので市長さん来ませんかって言ったんですよ。それで、そこで演奏してくれたのが4人の方なんですけれども、みんな20代。1人がマラカスの世界一っていう人で、それからアルパ、それとあとクワトロ2人だったかな。それで、やあ、すごい演奏ですねえって話したら、ベネズエラは貧困な人が非常に多くて、ひとり立ちしていくために、手に職をつけるっていうのを音楽でやっているんです。それもクラシック音楽を土台にして。それで、楽器やなんか全部用意して、バイオリンを弾いたりとか、そういうクラシック音楽をやって世界へ出て行って、自分で稼ぐようにしようと。国内だけじゃなかなか稼げないんで、こういう仕組みをつくって、それを始めたら、貧困で居場所がなかった子どもたちが、その楽器を演奏するようになったら真剣に取り組むようになって、いろいろの犯罪も減ってきたということで、そういうことも含めて、これを音楽を通じてやったっていうことなので、やはりすごい取り組みだなと思います。それと、世界に通用する人っていうことでいくと、やはりクラシック音楽のほうが世界に通用するということなんですかねえ。それで、今、日本では相馬市がそういうシステムで取り組みを始めています。相馬市は、震災が起きて、子ども

たちが非常に不安定になってきたので、日本で初めてこのシステムを入れていきます。やはり、みんなが一生懸命やらないと身につかないし、バイオリンとか珍しいものなので、今、かなりそれで取り組みをしているんですね。そういったところを見させていただきながら、ぜひ子どもたちの情操教育のためにも、こういうのをやったらどうですかとベネズエラのほうからも話がありまして、今のところ、楽器やなんかは用意してくれるんですよ。向こうで。また、指導者やなんかも養成して、あとは、ここの地域に合ったものを取り入れても別に問題ないので、これを中心にしながら、こういう音楽を通じたことをやっていければ、他のところには無い取り組みだし、ホストタウンになった意味もあるのかなと、そんなことを思っています。

それから、今、いろいろの人に話しているんですけど、この駒ヶ根市内でも、委員長さんも「むつのを」で琴をやってもらっていますが、そういったいろいろの取り組みがあるので、それらもここから発信できればいいのかなと思っています。ですから、やはり子どもたちは小さいうちから何かに打ち込んだほうが良いと思います。スポーツ以外でも、文化でもそういう取り組みをしていただければ、非常におもしろい取り組みかなあと思っています。このエルシステマのシステムそのものの目指すところというのは、子どもたちが、例えば母子家庭やなんかで厳しいとか、いろいろありますよね、そういう子どもたちに手を差し伸べて、文化のほうでも何かに夢中になってもらう、そしてそれを生かしていくような、そういう人間形成をしたいという、そんなことなので、私もこれは良い取り組みかなあと思っています。

あと、このエルシステマは文化のほうですけど、子どもたちの体力の問題も非常に問題なものですから、実は日本体育大学と連携協定を結ばせていただいて、先日も行ってまいりましたが、何とか、今度は保育園、幼稚園から、スポーツのほうもちょっと力入れたいなあと思っています。やはり子どもたちのスポーツと、こういう文化と、両方しないといけないのかなあと思っています。その一つとして、このエルシステマという、要するにベネズエラで子どもたちの教育システムとしてある程度これ実証して成功している事例なので、このシステムを入れて、取り入れる楽器などはいろいろのものがあろうと思いますから、そのシステムは生かしていきたいと思っています。

駒ヶ根市内でも伊那フィルの指揮をやっている春日さんとか、松井さんもやってくれたりして、そういう関係者もちょうどいてくれるのでいいのかなと思っています。誰かやってくれる人いないとだめなので、春日さんたちも、このシステムをもう知っていて、こんなことをやってくれるなら画期的だったって言われてもいますし、何とかやってくれそうな人もいるので、取り組めると思います。

**○小平教育次長** 今、やっておられる団体の皆さんと連携して、例えば委員長さんのところの琴とか、そういったところと連携したり、学校で金管バンドとかやっていますから、そういうところとの連携とか、あるいは赤穂南小学校だけで金管バンドやっていますが、ほかの学校でもやりたいって人ができるようなシステムにするとか、そういった駒ヶ根版的な取り組みからまずスタートをしていきたいというようなところですよ。

**○杉本市長** これから立ち上げていきますので、委員長さんは特に詳しいから、またよろしくお願いします。さっき居場所づくりという話も出ているんですけども、そういうところにこういうのも入れたらどうかなあと思うんですよ。

○小平教育次長 よろしいですか。

○北原教育委員長 ほかの皆さん、どうでしょう。よろしいですか。

それでは、6番、赤穂公民館に関して福澤委員さんからお願いします。

○福澤教育委員 公民館の整備ということの中で、進め方については素人なのでよくわかりませんが、こういう大きな施設をつくる時には、そのお金があつて箱をつくることはプロがいるのでできると思うんですけども、その設計の段階で、やはり求められるものを造っていかないと利用がうまくできないっていうことは昔からよく言われていることですので、今の公民館は、自分もさんざんお世話になって、若い頃よく集まったんですけども、この間、公民館長さんの話をちょっと聞いたときには、赤穂公民館の活動は、なかなか東伊那とか中沢と違って難しいんですよっていうような話で、東伊那や中沢は、割合とそこへ分館が集まってきてやるんですけども、赤穂は広いので、なかなかそれが集約して全体でというやり方は難しいんだというような話をしておりました。それと、施設を使う団体がどれくらいあるのかということですか、昔はかなり活発だったんですけども、若年層から高齢の方から、いろんな人たちが社会教育の中で勉強したりサークルをつくったりという活動が、今よりもさらに活発になっていくというような方向性を持っていかないといけないと思うんですね。そうするためには、やはり、その使い勝手だとかそういうことを、設計の段階でしっかり構想を練る中で、人の意見を聞いて集約していかないとうまくまとまっていけないんじゃないかと思います。昔からそういうやり方をやってきたんですけども、ぜひ、そういうやり方をしてもらって、設計する人はそんなによく解っていないと思うので、市の要望として、どんどんそういうものを突き付けて、使いやすいように造ってもらおうという方向を確立していってもらうことが一番大事じゃないかなあとと思いますし、そういうふうに進めていくんだと思いますけれども、強力に進めていってほしいなあと思っております。

それと、できた後に、いろいろな問題があるっていうのは、公共施設の場合は結構あつて、予算も国からの補助が2億4,000万円かな、そのくらいは入ると思うので、当然、また後で、会計検査だとか、そういうものが来ますよね。そうすると、前もちょっとあったかもしれないけれども、この監査が、解釈が違うだとか、そういうことで問題になるとかということもありますので、そういうことも用意周到に進めて、みんなが使いやすい公民館にしていいただければ良いなあと思っています。これは要望みたいなものですが、お願いします。

○杉本市長 そうですね。駒ヶ根市のいろいろな施設、例えば市民体育館も、当時は文化会館が無かったので、ステージがあつて、あそこで全部ができるような施設だったんですけど、文化会館ができたので、今回は、あのステージ無くして、体育専用に使ってもらいました。赤穂公民館も、あそこのホールがちょうど良い広さで、いろいろのイベントなどをやっていたんですけども、やはり文化会館ができたということで、その役割がほとんど無くなってきているんですね。ですので、今回も、駒ヶ根市内にはさまざまな施設ができてきているので、それらと連携をして行く中で、今の公民館に必要なものは何かということは、また、皆さんの意見をもらって進めていきたいと思っております。あと、やはり駐車場やなんかが、あそこのところはあまり無いので、今までにいろいろの皆さんからご意見を聞いた後、報告を受ける中では文化会館に併設するのが良いんじゃないかというようなご意見が多いと聞いていますが、そうした場

合に、今度は文化会館に今ある勤労ホームや、それから、いろいろ施設があるので、それとダブるようなところもあつたりすれば、そういうものが活用できれば良いと思うし、また、他に必要なものがあればということもありますので、また幅広く意見を聞きたいと思います。そういう中で、来年一年くらいで、大体、基本構想くらいはまとめられたらなあと思っています。

○**福澤委員** お願いします。

○**杉本市長** はい。また意見を聞く場所をつくりたいと思います。また、文化団体の皆さんからも聞かなきゃいけないと思っているし。

○**北原教育委員長** 先日の文化財団の理事会、評議員会でも様々な意見が出ておりましたので、それぞれ要望を言って良いということでしたね。

○**杉本市長** また意見を出してもらって。

○**北原教育委員長** ええ。何か、あの要望を全部聞いていただければとても良いものができるんだらうなと思っています。

○**杉本市長** 何が出ていたんですか。

○**北原教育委員長** 公民館に先ずは小ホールをつくるという、前に私も何度も言っているかと思うんですけども、軽運動場ではない小ホールのことと、あとは、図書館が手狭ですとか、博物館の展示スペースがというようなご意見も多々ありましたので、また、その設計の段階とか意見を聞く段階で、皆さんからの意見が出てくると思いますので、お願いいたします。

○**北原教育委員長** それでは、7番、文化財の保存・活用と芸術のところですけども、もう、今まで公民館の件とか、いろいろベネズエラのエルシステマの件も含まれてくるんですけども、まずは文化・芸術活動に関して、私もその中の一人で、それが専門なんですけど、文化会館における自主事業ですとか、その実施に関して、予算的にはそんなに毎年変わってはいないところだと思うんですけど、以前にも少し市長さんともお話をさせていただいたことがありますけど、今後の文化会館とか文化における発展がないと市は発展していかないんだって、市長さんもおっしゃっていましたが、どのような今後の展開、文化会館も30年が過ぎまして、今年は照明設備を変えていただいたところですけど、トイレの問題とか、いろいろ出てくるんですけど、老朽化の部分もあると思いますので、公民館も含めた文化会館の位置づけなど、今後の文化の発展を市長さんはどのようにお考えになりますでしょうか。

○**杉本市長** 文化会館のほうは、あの施設そのものは、おかげさまで専門の人に設計してもらったので、評価はうんと高いですね。あのホールの音響はなかなか無いとプロからは本当に褒められます。あれは素晴らしいと言って。今まで音響を整備させてもらって、それから照明をこれで直させてもらったので、後は来年ですが、今、つり天井がどこでも問題になっているんですけど、文化会館もそうで、みんなつり天井なんですよね。だから、今、どんな方向がいいか検討して、それはしたいと思います。施設は、やはり、あの音響は他にないので、ぜひ生かしたいと思っています。また、何か手を加えちゃ大変なことになっちゃうと、みんな良いつて言ってくれていますので、そこはいいんですけど、今度は、あそこを生かして、どういう文化を高めていくかということになると、残念ながら今無いんですよね。だから、私は、よく小原さんとかと話をしているのは、本来なら地元の歴史、伝統、文化という、この文化をもっと発信してもらいたいということ。地元のを。例えば神楽とか、いろいろあるじゃないですかねえ。でも、みんな、今無くなって行っちゃうんですよね。後継者がいなくて良いものが無くなっ

て行っちゃう。今いろいろのところで歴史とか伝統、文化を大事にしたものが世界遺産になったりしているじゃないですか。まず、一つは、地元根付いている文化を、ぜひ発掘したり、また再生したりしてもらいたい。それと、さっき言ったように、それだけじゃなくて、子どもたちにいろいろのチャンスを与えたいので、エルシステマのようなシステムを入れて、今この地域で頑張っている皆さんも本当に頑張ってもらって、文化会館からあの辺のところを中心に、そこに行けば常に何か文化活動をしているよと、そう言われるところにしてもらいたいですよね。そのためには、文化財団が、もうちょっといろいろのソフト事業を頑張ってもらえるようにしていきたいというところですかねえ。やはり文化の発信力が弱くなってしまうと、どうしても街の力は落ちてしまうと思います。今、公民館などを見ていっても、8割が女性、下手すると9割が女性ですかねえ。男の人はどこへ行ってしまったのかと。本当に、男性が定年になっちゃうと、いないんだよ。それで、男性同士で行き会うと、必ず名刺を出すんだよ。名刺の社会で、それで、何かの開発、どこに勤めているとか、そんなことつきり言っていて。やはり、そうじゃなくて、人間らしく生きるっていうのは、体が動かなくなってきたら文化活動ってすごく重要なので、そういうのが豊かになってこないと本来の街の豊かさって出てこないのかなって、そんなふうに思っているもんですから、今回やるにも、少し、そういったハードの面では、そういう使い勝手の良いものをつくって行って、そこを生かすか生かさないかは、実は、行政よりも、ぜひ教育委員会で頑張ってもらって、そういう仕組みをつくってほしい。生かす。それは前々から思っているところですかね。ですから、そういう文化の関係者が集まったりして、常に自分たちが発表する、どんどんどんどん発表するような機会をつくっていったらいいんじゃないかと思えます。それと、男の人たちが何かできるようなものがあればいいと思うんだけど、女性は元気だよ。男の人はどこへ行ってしまったのかっていうくらい。だから、これから福祉の健康問題とか、いろいろやっても、スポーツをやるだけではなくて、文化活動をやるっていうこともすごい機会づくりになるので。実は、このエルシステマも、子どもだけじゃなくて、相馬市はお年寄りがやったら、10回ぐらい、2~3ヶ月練習してプロと一緒に演奏したんですって。その中に入って。それで、みんなもう感動しちゃって。私たちがこんなことができる、そういうのにしたいんですよ。ですから、子どもたちだけではなくて、大人の人たちも。我々の世代って、ちょうど団塊の世代だったので、家庭も貧しかったし、音楽を習いたくても、当時そんなのに行けるのは本当に限られた人。でもやりたいと思った人はいっぱいいたと思うんですよ。でも、今からできるなら、それもプロとできるならっていうことは感動するじゃないですか。だから、そういうようなことを、このエルシステマもそうなんですけど、子どもだけではなくて大人もしていく。だから、委員長さんがやられる琴やなんかも、全然弾けなくても、大人が行って練習して、それで演奏会できるって、そういうふうなことをしてもらいたいですよね。だから、いろいろの人に機会を与えていく、そのために、今度は大きいところよりも使い勝手が良いのは、小さいところね。使いやすくする。そういうものにしていけたらなあと思っています。やはり文化の振興に多くの人に関わってもらって、駒ヶ根市らしい、そういう活動ができていけば、スポーツと文化、両方ね。両方していれば生きがいづくりにうんとなるんじゃないかなあとは思っています。それは、ぜひ、教育委員会の皆さん、特に委員長さん、今一番最適者だと思いますので、お願いします。そういうソフトはね。

○北原教育委員長 わかりました。

○杉本市長 あとは、今まで文化財に関していろいろしてもらっているの、やはり文化財を含めた活動も大切で、地元の人たちが地域の文化財などのことを知らない、外へ行ってしゃべれないようじゃあ困るんですね。この前も何かのときに、人の名前を何人か言っても、知らない人がいっぱいいて、井上井月も知らないし、下島空谷って誰ですかってわからない人も何人もいるし、福澤泰江さんも知らない人がいるし、田中さんも、天下の糸平さんも誰だ。教育長さんにも駒ヶ根市の歴史上の人物も発掘してくださいってお願いしているので、改めてこの地域のことを、子どもたち、大人も知っていく。そういうことをすれば、駒ヶ根に行けば、駒ヶ根ってこういうところだよってみんなが紹介してくれる。活力がある街になっていくんじゃないかねえ。

それと、あと、特に今の子どもたち。少子高齢化でみんな出ていっちゃって帰ってきてくれない。だから、帰ってくるような動機づけをどこにしておくかっていうと、ここの地域の歴史とか、おじいちゃんおばあちゃんたちが頑張って、こういうふうにしてもらって、ここで私が育ったんだとかね。ぜひ、「ふるさと」じゃないけど、志を果たして帰るんじゃないで、志を果たしに駒ヶ根にぜひ帰ってきていただけるような、「ふるさと」の歌詞を変えらるような、そういう子どもたちを育てていくには、さっき言ったように、文化だとかそういう活動、ものすごい重要だと思うんですね。だから、自分たちが育ったところを誇りに思えるような、そういうことを子どもたちに教えていく。今の教科書だけでは駒ヶ根市のことは出てこないの、今、副読本をつくらせてもらっていますが、何とか子どもたちには、そういう本来のこの地域のことをみんな教える。それで、大人もそのことを知っている。そういうことをして行って、やはり自分が大きくなったら生まれ育ったところに帰って、その人たちのためになろうって、そういうことをしていかないと、今の地方創生ってなかなか難しいのかなと、今、そんなことを思っているの、文化のこと、歴史、伝統、文化のこと、特にその辺を、いろいろの意味でまた教育委員会で議論してもらうことをお願いしたいなと思います。市のほうも、これからいろいろ進めていく上では、それが一番原点かなと思います。

○北原教育委員長 ありがとうございます。私は現在、文化財団の理事として文化財団のほうには関わらせていただいております、もう随分長くなると思うんですけども、いろいろ何年か活動をさせていただいてきましたし、財団の理事の中には本当に芸術家がたくさんおりますので、その辺で何とかならないものかとずっと考えてきたんですけども、やはり、市という行政と文化財団には理事会なり評議会というものはあるんですけども、それが何かうまく回っていかないってことを若干感じております。先日の理事会の折に、文化財団の理事長さんがちらっとおっしゃったことが、最近、毎回出るなと思うんですけども、こういうことをやりたい、ああいうことをやりたいという議論を理事会ですべて、結果的にやるのは職員さん方だからねっていうことで終わってしまうので、その辺の何かこうシステムを構築できるのかなっていうふうに思っています。それも含めると、そのエルシステムの事業が導入されたときに、地域の芸術家の方とかそういう方も入って、何かうまく、こう組織ができて、それで文化を文化財団とともにというか、文化会館を使って、あるいは公民館を使って展開できるような、何かシステムができていけば、もっともっとできる方もたくさんいらっしゃると思いますし、今まで駒ヶ根の文化を引っ張ってきてくださった音楽の先生もいらっしゃいます

けれども、だんだん少しずつ年代も年齢も上がっていきましますし、その辺で何かいいシステムをつくっていくことを考えていかなきゃいけない時期ではないかなあっているふうに、私も最近、特に感じますので、エルシステムも活用ができればと思います。あわせて文化会館、文化の振興ということになればいいかなって考えますので、どうぞよろしく願いいたします。

○**杉本市長** また理事会とかでも、そういうシステムを考えていってもらえればと思います。

一番簡単によくやる場所は誰か有名な人を連れてきて、その人が館長とか何かになってやる場所はあるじゃないですかねえ。でも、必ずしもそればかりで良いか。私は、外よりも地元の人たちが自分たちで苦労しても、つくり出していくっていうことが、ものすごい重要だと思うんですね。ですので、ぜひ、いろいろ提案してください。

○**北原教育委員長** わかりました。ありがとうございました。

○**杉本市長** 思いはそんなところですよ。

○**北原教育委員長** はい。ありがとうございました。

○**小平教育次長** ほかに予算関係で、何か文化ありましたらお出しいただきたいと思いますが、よろしいですか。〔「はい」と応える声あり〕

○**小平教育次長** 予算についてご議論いただきました。また、これを踏まえて検討させていただきますが、せつかくの機会ですので、ここにあります予算以外にも何かコメントがありましたらお出しいただければと思いますが、どうでしょうか。

○**杉本市長** 今日の夜、中央アルプスジオパークの協議会を立ち上げます。実は、ジオパークも何で今回やるかという、この地域というのは、やはり千畳敷があったり、田切地形があったり、いろいろな地形があるんだけど、なかなか知らない人が多いんですよ。そういった地形だからこそ、この生活の文化もいろいろあると思うんですね。そういうことをもう1回みんなが認識する機会に、このジオパークの指定を目指したいと思っています。ジオパークの指定を受けるには、最近、ハードルがだいぶ高くなってきたみたいで、審査員が来て、ジオパークって何って聞いたら誰もわかりませんっていうのは認めてくれないっていうものですから、ジオパークのことも上伊那全体で意識づけしていきたいと思っていますので、また、教育委員会でも、ぜひ機会あるごとに、中アのジオパークに関して話題にしてもらえるようお願いしたいと思います。今は、ジオパークを目指したり国定公園化したりして、こういうところを改めてレベルを少しでも上げていければ、また市民にとっても、ああ、そうなったのかっていうね、動機づけになるのかなあと思っているので、ぜひ、そんなこともお願いします。

○**小平教育次長** ほかに何か全体を通じてあればお願いをいたします。よろしいですか。

○**北原教育委員長** はい。

○**杉本市長** 一生懸命ハードをやりますので、中身はお願いします。教育委員会で中身の充実を。

○**北原教育委員長** はい。

○**杉本市長** ぜひ、教育委員の皆さんには、十分いろいろの議論をしていただいて、駒ヶ根市らしさというのを出していかないとだと思います。今、私のほうも、子育てとか、かなり駒ヶ根市も先駆的な取り組みをしているんですけども、そういうのを市民の皆さんにどれだけわかってもらおうかっていうことは、ぜひお願いしたいなと思います。私も機会あるごとにやりますけど、どうしても、どこそこは、どこそこはっていう話が出るんだけど、やはり自分のところが自慢できるようにしていきたいと思っていますので、ぜひ、そのところをお願いします。

**○小平教育次長** これから新年度の予算編成に入りますけれども、いただきましたご意見等、また事務局のほうで検討、調整させていただきたいと思います。

次回の総合教育会議でございますけれども、この協議いただきました新年度予算は、3月に議会の議決を経てまとまっていく予定でございます。また、29年度に入って4月ごろに予定をさせていただき、この事業の推進方針などを主な議題にして開催をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いをしたいと思います。

**○杉本市長** 最後にすみません。新しい事業もいいんですけども、財政がとても厳しいので、古い事業を1回点検したいと思っています。今まであったものでも、やはりずっとやってきたが、こちらはやめて新しいことに振り向けるとかしないと、どうしても財源が足りないので、今年は、いろいろの意味でもすべての事業について1回見直しをして、本当に必要なのかどうかということをやりたいと思っています。また、その点で、事務局を通して皆さんにも幾つかはご提案申し上げなきゃいけないと思っています。

それから、市民委員会も、皆さんの意見を聞き、広く市民の皆さんにも議論いただく中で進めていきたいと思っていますので、また、ご理解等をしていただかなきゃいけないところがあるかと思いますが、よろしくお願いをしたいと思います。

**○小平教育次長** そういう方針で、今後予算編成を進めてまいりますので、また、作業がまとまりましたら、説明させていただきたいと思います。

それでは、以上をもちまして、第3回総合教育会議を閉じさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。(一同「ありがとうございました」)

午前11時21分 閉会